

まなづる 海の月報

トピック 真鶴の海

春の磯、ウメボシイソギンチャクをさがそう



ウメボシイソギンチャク 左：三ツ石海岸で群生する様子。干潮時は体を丸めてまことに梅干しのよう。右上：海中で触手を広げてプランクトンを食べる様子は花のように美しい。右下：博物館の展示水槽では、分裂した小さな個体が数多く見られる。

春になると日中に潮が干くので、磯遊びを楽しめるようになります。干潮時の三ツ石海岸に出かけたら、ぜひ探してみたいのがウメボシイソギンチャク。神奈川県天然記念物に指定されています。ウメボシイソギンチャクは直径2~3cmの赤い体で、波あたりのよい岩陰にくっついて生活しています。潮が引いて水から出ている時は、体を丸く閉じて梅干しそっくりの姿をしており、その名がつくのも納得です。

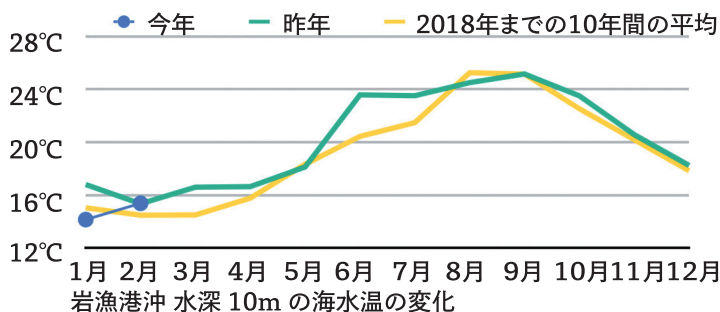
博物館ではウメボシイソギンチャクを水槽で展示していますが、ある日突然、小さい個体が増えていることがあります。通常、イソギンチャクの仲間は海中に卵を産んで増えますが、ウメボシイソギンチャクは、体内で分裂し、いくつもの小さな個体を増やすことができます。親子のように見えますが、遺伝子的には同じ個体、つまりクローンです。その能力を活かして、同じ場所でどんどん増えることができるため、三ツ石海岸では見事な大群生が見られます。

ウメボシイソギンチャクは全国的に生息しますが、三ツ石海岸にあるような大規模な群生はめずらしく、湯河原町福浦のカツラゴ海岸のサンゴイソギンチャクとあわせて、昭和54年の2月、県の天然記念物に指定されました。申請したのは当時真鶴中学校の理科教員だった渡部孟さんで、これらの指定を通じて、真鶴半島沿岸の自然の豊かさを認めてもらい、自然保護につなげたいと考えたそうです。そのおかげもあり、半島の海岸の自然は43年もの間、守られてきました。これからもぜひ大切にしていきたいと思います。

真鶴の海況

海水温、昨年並みの温かさに戻る

岩漁港沖水深10mの2月の海水温は15.4℃でした。1月の水温は4年ぶりに冬の寒い寒さでしたが、2月は昨年並みまで上昇し、この時期としてはやや温かい海となりました。<情報提供：横浜国大臨海環境センター>



まなづるの漁獲情報

旬の魚に混じって獲れる未利用魚



カゴカキダイ (体長約15cm)

真鶴漁協の定置網で続いていたサバやイワシの大漁は落ち着き、スルメイカやウマヅラハギなどが水揚げされています。冬の終わりのこの季節らしい魚種ですが、全体的に量は少なめで、水揚げが少なくなる時期、「漁閑期(ぎょかんき)」を迎えています。

定置網漁では、沖合に仕掛けた大型の網に入ってきた、様々な種類の魚を捕獲します。サバやイワシなど誰もが知る魚に混じって、「少量しか取れない」、「食べる習慣がない」魚も獲れることがあります。これらは「未利用魚」と呼ばれ、市場であまり流通しませんが、実はその中には美味しい魚も多くあります。今回紹介するカゴカキダイは、かわいらしい姿をした魚で、磯や港で幼魚をよく見かけます。しかし、その見た目が仇となり、美味しそうに見えず、市場で値がつかない未利用魚にあたります。ところが味は良く、上品な白身でありながら濃い旨味が楽しめます。今回は、塩焼きと刺身で美味しくいただきました。真鶴では、未利用魚は比較的手に入りやすいので、ぜひ皆さんも味わってみてください。 <情報提供：真鶴町漁協>

町立遠藤貝類博物館 3月中旬~4月のイベント

- 3月20日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察・海の自然実感教室」
町立遠藤貝類博物館【要申込・保険料】
- 4月3日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察・海の自然実感教室」
町立遠藤貝類博物館【要申込・保険料】
- 4月17日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察・海の自然実感教室」
町立遠藤貝類博物館【要申込・保険料】

町立遠藤貝類博物館は3月は全日休館。見学には要事前予約。(電話 0465-68-2111)
4月からは水曜・木曜休館

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。印刷、掲示・配布歓迎です。